

は し が き

本書は先に金星堂より出版され好評を得た*Global Challenges* (『人と地球を考える』, 1991), *Global Perspectives* (『地球社会の未来を考える』, 1996) に続く第3弾である。今回も、これらのテキスト同様、ピーティー氏は現代の地球社会が抱える主要問題を過去に取り上げたテーマとの重複を避けながら、極めて主観的に独自の見解を展開している。本書で新たに取り上げたトピックスを章毎に見てみると、1. 日本のエネルギー問題 2. 発展途上国の自助努力 3. 観光業が抱える諸問題 4. 日本のジェンダー問題 5. 国連の果たすべき役割 6. 世界の人権問題 7. 武器取り引き 8. 国連難民高等弁務官事務所と難民問題 9. 消費者生活と環境問題 10. マス・メディアの真偽性 11. グローバリゼーションの問題点 12. 遺伝子操作, となる。

これでわかるように、本書ではピーティー氏は以前にも増して日本が抱える独自の問題にも真正面から取り組み、具体的な提言を行なっている。確かに原子力に変わる代替エネルギー開発と、家庭内暴力やセクハラなどのジェンダー問題は、今後日本が真剣に考えて行かなければならない問題で、世界的な基準からみてもはなはだ遅れている分野だと言えよう。また、本書で論じられている世界貿易機関(WTO)、クローニング、遺伝子組み替え食品などの問題は、日々世界のテレビや新聞で報道され論争の基となっている。これらは一見より良い人間生活環境を目指しているように見えるが、それらの持つ倫理・道義面は決して看過してはならない。我々はともすると便利な生活を求めるあまり、あるいは解決を急ぐあまり、その背後にあるさまざまな問題を見逃したり、忘れがちである。ピーティー氏の視点もまさにそこにある。

上述の章立ては、それぞれのエッセイの長さ、テーマ及び語句の難易度、専門用語の頻出度、テーマの関連性などを考慮して決められたが、随時、学生諸君のテーマへの関心と興味に合わせ、必ずしも順番通りに読み進める必要はないだろう。取り上げたトピックによっては、普段見慣れないあるいは聞き慣れない専門用語と国際機関の名が頻出するが、これらは巻末の注で著者が英語で詳しい説明を加えているので活用して欲しい。各章のエクササイ

ズは、エッセイの内容理解を確認させるComprehension check, エッセイの内容を広い観点から議論させるDiscussion, 及び重要語句を修得するためのVocabulary check等のバラエティーに富んだ問題から成っている。これらは諸君の英語による思考力の涵養を目的に作られたものである。しっかりとした予習によって諸君の英語力が着実に伸びることを願って止まない。

2001年10月

及川正博